

県史談会 令和 3 年 5 月 9 日(日) 史跡めぐり

〈愛川町の細野・馬渡・平山地区〉

【見学箇所と参考資料など】

1. 清雲寺 愛川町半原836番地

宗 派：臨済宗（建長寺派）

山 号：独園山

本 尊：地藏菩薩

本 寺：興徳山雲居寺

開 基：内藤三郎兵衛秀行（天正11年 8 月10日没）

神奈川のむかし話50選「ひとしよい門」

【別添】『黄色いチラシ』No.141 木流しあれこれ 善正坊の一しよい門

2. 細野城址

細野城は中世の山城で、自然の地形を利用して防備とした武士の居館であった。

築城の年月は不肖。城域は東西約130㍍、南北約240㍍ ほどであった。

城主は小田原北条氏の家臣内藤下野守秀勝で、田代・半原・小曾郷（海底）・隅田（角田）・箕輪・下村・坂本・五坊（北原）・磯部を領地としていた。のち、その子三郎兵衛秀行とともに田代城を築いた。

いま、城山・本丸・二の丸・木戸口などの地名を残し、礎石・空堀などの遺構は国道の開通で消滅した。

《昭和55年12月 愛川町教育委員会設置の案内版より》

【別添】『神奈川中世城郭図鑑』（西股総生・松岡進・田嶋貴久美著）

金山社

ここは、戦国末期、この地方に勢力のあった小田原衆のひとり内藤氏の持ち城である細野城の址で、この社はその城の西方の守護神であったと伝えられている。社前に幅の狭い低地が横に続いているが、これは城

をめぐる壕の跡だとされている。また、下の棧敷戸の部落から、この台地に上りきった付近をキドグチ、鵜沼俊雄氏、小島松治氏、鈴木延義方の元屋敷あたりを、シロヤマ、ニノマル、サンノマルと称しており、いまでもそれらの家々は、その称を家名として呼ばれている。

《『愛川町の小祠・小堂－田代・細野地区－』より》

3. 如水小島翁之碑

小島駒吉は、現在の半原74番地小島喜一氏(昭和57年当時)の祖である。大工の家に生れ、若くして算道に入り、師について和算の奥義を極め、如水と号して、和算塾を開いた。その名近隣にきこえ、入門者は300人の多きに達したといわれる。如水は、また和算を応用する土地の実測等にも、時の戸長と共に行ったようで、算者先生として幕末から明治にかけて、この地方の数学専門師匠として知られた。当時として、「点源点鼠や開立開平」の法をも伝えたのである。現在小島家の近くに如水翁の顕彰碑があるが、その中の文にはただ和算の学のみでなく、忠孝の道や節義を子弟に教え、人間的な教養を身につけ、教育実績をあげたことがあらわしてある。後学区制頒布に際し、半原、中津等七ヶ村会議により一校を設け、まねいて師とした旨もでている。

《『愛川町郷土誌』より》

【註】現在小島喜一家は清雲寺近くに移転

4. 妙誠寺 愛川町半原90番地

宗 派：日蓮宗

山 号：大高山

本 尊：久遠釈迦牟尼仏

本 寺：身延山久遠寺

開 山：小島日仁上人【明治33年愛川村半原生れ】

開 基：大貫作右衛門

縁 起：明治初年、半原馬渡の住大貫作右衛門妙法に帰依し、同信の者多くを得て同地に鬼子母神堂を建立し教化に励む。以後

代々の大貫家当主信仰に精進し、遂に昭和21年12月小島日仁上人を開山として一寺を創立する。

大震災横死之精霊慰霊塔

【別添】『黄色いチラシ』No.69 住職小島日仁さんの手紙

『黄色いチラシ』No.82 彫刻家中村博直氏

6. 田代第二発電所跡（馬渡橋上流、元町役場半原出張所前）

大正3年設立の愛川電気株式会社が、大正11年に田代志田に完成させた。通称は「田代発電所」で、総出力440キロワット。中津川の水を上流の隠川から1090メートルの導水管で引き、背後の山の上から落差14メートルで落とし、フランス水車2台の発電機を稼働させた。

当初の建物はレンガ壁だったが、のちにモルタル壁となる。

対岸の馬渡側まで吊り橋が架かっていた。閉所は昭和39年6月。

7. 塩川滝

【別添】『黄色いチラシ』No.342・343 江の島淵追想 小島瓊禮

8. 田代第一発電所跡（マス釣り場前の山）

明治44年3月に愛川村の相武電力株式会社が、大正4年に田代向河原に完成させた。通称は「向河原発電所」または「塩川発電所」で、総出力22キロワットであった。この建設により、現愛川町域では、田代地区に最も早く電灯が灯ったが、戦前に閉所となっている。

9. 勝楽寺 愛川町田代2061番地他

宗 派：曹洞宗

山 号：満珠山

本 尊：釈迦如来

本 寺：大珠山香雲寺（秦野市西田原）

開 基：内藤三郎兵衛秀行

18世大忍国仙大和尚（寛政3年寂）は良寛さんの師

【別添】『黄色いチラシ』No.57 良寛の師は勝楽寺十八世

田代半僧坊

28世一法海心大和尚が明治23年4月17日に遠州(静岡県)奥山方広寺から半僧坊大権現を勧請する。

菊池菊城先生墓

渋沢栄一の伯父・渋沢宋助は、大豪農で、栄一が14歳の時、旅学者である菊池菊城を招聘し、学問所を開設しました。その時、栄一の師である尾高藍香が門弟となりました。《『黄色いチラシ』No.34より》

菊池菊城は、埼玉県菖蒲町大字台の人で、青年期に江戸で、当時の碩学山本北山について学び、漢学に通じ、剣道も達者であった。性格が勇壮で熱情があり、名利を排した誠実厳格な人物であったようである。人情のうすい時の世情をなげき諸国を巡遊、その範囲は伊豆、駿河、甲斐、越中、越後にも及び、門人は、3,000人に及んだといわれている。田代大矢新九郎の学問所創設を機に当地に来遊しとどまって晩年をすごし、青年子弟を教育した。半原の雪の山越中病を得て逝去した。田代勝楽寺に門弟が建てた碑が残っている。門人には、染矢勝元、田島讓三郎、田島元竜、井上清澄、柴田宗昔、石井常教、花上市郎兵衛、染矢三郎等があり、これらは後に医者や手習所の師となった。

田島讓三郎、花上らは半原学校の師となり、とくに田島は初代校長である。なお、菊城没後の学問所は、山口平右衛門や旧幕家人林貞次郎(後甲賀姓)がうけつぎ、田代学校開校時教師として迎えられた。

田島元伯の家は代々医家であり、傍ら手習を授けていた。子元竜、孫達生もうけついだが、達生は若死のため、医業は絶えた。

染矢勝元は半原4177番地染矢太郎氏曾祖父で、現存する碑文によると半原村の里正(現在の村長)で、菊池菊城の門に学び門人100人余を教育した。《『愛川町郷土誌』より》

【別添】『黄色いチラシ』No.34 教えて下さい 菊池菊城のこと

『黄色いチラシ』No.36 菊城・五川 その後

『黄色いチラシ』No.39 渋沢華子女史、上荻野源氏橋聴流庵を訪れる